

「ナラ枯れ」について

令和2年10月

千葉県農林水産部森林課

1 ナラ枯れとは

ナラ枯れは、ナラ類、シイ・カシ類等のブナ科の樹幹に、カシノナガキクイムシ(体長4~5mm程度の小さい虫)が穿入し、ナラ菌を木の中に運び込みます。

この菌が増殖して通水障害が起こり、7~8月頃に葉が枯れる樹木の伝染病です。



翌年は、枯れた木は葉や枝が落ち、周辺に被害がみられる。

2 被害を受ける樹種

樹種によって枯れ方や被害の程度に違いが見られます。

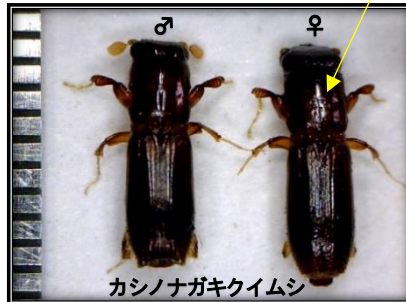
ブナ科のナラ類は林分の3~5割程度が枯死し、常緑樹であるシイ・カシ類は、一般的に被害の程度は軽く、見かけ

上は大面積に見えても実際には枝部の枯れにとどまるといわれています。県南部地域で発生がみられているマテバシイの事例は全国的に少なく、県ではモニタリング調査を行っています。

また、比較的高齢級で大径木化した落葉広葉樹で被害が多くみられる傾向があります。

なお、人体や他の動物への影響はありません。

1目盛0.5mm メスの背中にナラ菌を運ぶ円孔



3 被害の特徴

木の幹に穿入孔があり、根元に大量のフラス(木くず等)が貯まっています。

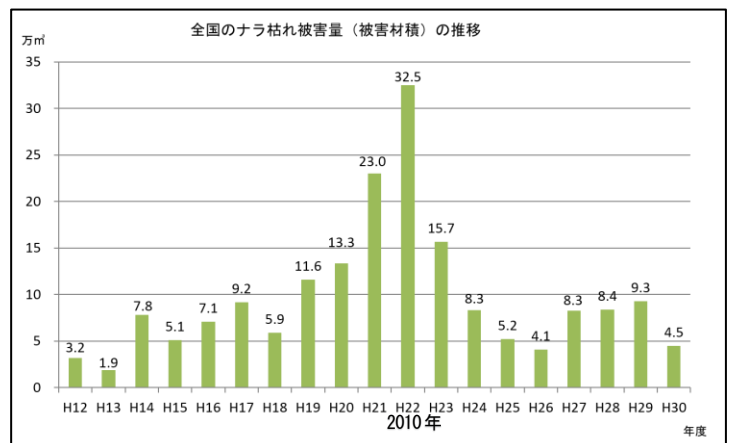
フラスは木の中で生活するクイムシが穿入する際に発生し、穿入孔は直径2mm程度です。



4 全国の被害の推移

被害は1990年前後から、日本海側を中心に目立つようになり、2000年頃から拡大の傾向を見せ、10年後の2010年にはピークとなりました。

その後、減少傾向にありますが、近年、これまで発生が見られなかった関東圏に広がり、山の尾根から谷間、都市近郊から奥山まで広く発生しています。

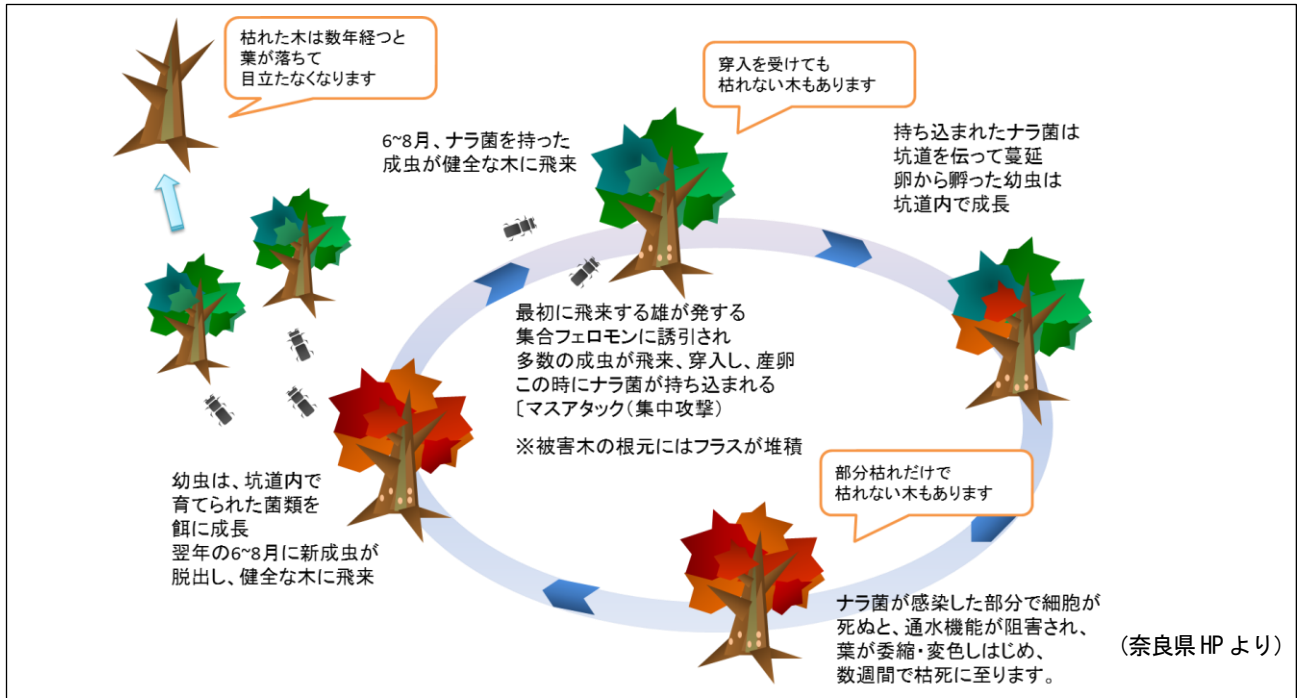


(林野庁HPより)

5 ナラ枯れのメカニズム

カシノナガキクイムシは、6～7月にナラ類に穿入し産卵しますが、その時にナラ菌が樹体内に入ります。集中的に穿入された樹木は、ナラ菌の作用により辺材部の通水機能を失い、8月頃に葉が赤褐色に変色します。

カシノナガキクイムシの幼虫は樹体内で成長、羽化し、翌年6月頃ナラ菌を持って飛び出し新たに健全な樹木を探し穿入します。



※マスアタック（集中攻撃）を伴わない穿入では、枯死しない場合が多い

6 主な防除対策

予防（未然防止）[健全木]

- ①保存したい立木がある場合：当該木への樹幹注入、資材被覆
- ②粘着剤・殺虫剤散布

駆除：（拡大防止）[枯死木及び枝枯死木]

- ①基本駆除：伐倒くん蒸もしくは搬出・焼却または破碎
- ②伐倒・搬出が出来ない場合：立木くん蒸
- ③おとり丸太、おとり木の設置、資材被覆
- ④伐採・割材処理

～留意点～

- ①翌年度羽化時期（5月頃）までにくん蒸、焼却等の処分を行う。
- ②伐倒は10月以降が望ましく、地際に多く虫が穿入しているため極力低い位置とする。
- ③運搬する場合は、未発生地への移動は避ける。

カエントケに注意

毒キノコ「カエントケ」はナラ類等が枯れた後に根際に発生することがあります。触っただけでも炎症を起こすことがありますので、絶対に触らず、食べないようにしてください。



(画像：厚生労働省 HP より)

【参照】カエントケ（厚生労働省 HP）

お問合せ先	千葉県北部林業事務所（香取、海匝、山武、長生地域）	電話 0475 (82) 3121
	千葉県北部林業事務所印旛支所（市原市を除く千葉、東葛飾、印旛地域）	電話 043 (483) 1130
	千葉県中部林業事務所（市原市、君津地域）	電話 0439 (55) 4970
	千葉県南部林業事務所（夷隅、安房地域）	電話 04 (7092) 1318
	千葉県農林水産部森林課森林整備班	電話 043 (223) 3630
	各市町村林業担当部署	